

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 7年 3月 13日

事業所名 辻義塾 南草津教室

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	0	利用者の人数や特性に応じて教室訳を行いスペースを適切にしている	
	2	職員の配置数は適切である	6	0	0	配置は適切だが人員はギリギリ	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	4	0		教室が土間と板の間に分かれており、境が30cmほどの段差になっている。改修困難のため介助にて対応
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0	0	毎週の会議や毎日のミーティングにて実施	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	0		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	4	1	相談支援員など外部の方が来られた際、客観的な意見をいただいている	外部評価を請け負う第三者機関を利用したことがない。次年度実施できるか問い合わせ中
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1	0		事業所内でリモート研修を受けているが参加が少ない。研修への参加機会を定期的に設けていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	0	面談を実施し困りごとや家庭での様子を聞きとっている	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	0	5領域に合わせたアセスメントシートを作成、保護者にも記入してもらい活用している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	0	毎朝のミーティングにて当日の利用メンバーに合わせて決めている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	0		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	0	0	利用者ごとに課題を設定し、利用者本人にも「めあて」として日々設定と振り返りを実施している	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	0		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	3	1	LINEでの報告や指導日誌への記録を用いて共有している	ほとんどの職員が送迎に出るため支援終了後の打ち合わせが困難。翌日午前のミーティングにて共有・振り返りを実施
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	3	0		忙しさから記録が後回しになってしまうことも。記録時間確保のため、スケジュールや記録方法の見直しを実施していく
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	0			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4	1	1		今回「ガイドラインが意識出来ていない」という意見もあったため、改めてガイドラインの周知徹底を図り、支援の質向上に繋げていく	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	0		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	1	0		情報共有や連携は学校側に断られてしまうことがある。できるだけ学校や保護者の負担にならないよう、可能な範囲での連携をお願いしていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	0	0		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	0	0	新一年生に関しては利用前の2~3月に園訪問を実施。園や児発から情報提供を受けている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	2	1	南草津教室は小学生中心のため機会があまりない。情報提供は可能だが求められたことが無い。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	0	0		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	2	4	学童や児童館との連携はスペースや人数等の問題から難しい	積極的に地域の公園や市町のイベントを活用することで、地域の子どもらと関われる機会を設けていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	0	0		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	1	0	保護者との連携が取りやすいよう、公式LINEを活用するなど工夫をしている	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	4	2		次年度県の研修を受講予定。職員のスキルアップを図り実施可能か検討していく。	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	0	6	今年度は夏祭りイベントをジュニアクラスのみではあるが保護者同伴にしたことで、保護者同士の関わりを持つ機会となった	これまで要望もなく「不要」との声が多かったため現状では保護者会の実施予定はなし。問い合わせがあれば、県内の保護者団体を紹介するなど個別に対応していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	0	イベントごとにアルバムを作成、ホームページの保護者専用ページにて発信している。イベント予定やブログも発信している	
	35	個人情報に十分注意している	5	1	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	1	5		安全管理上の問題から事業所内に不特定多数の人を招くことは今後も予定していない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2	0		マニュアルは作成、職員の周知はできているが、保護者への周知ができていない。次年度ホームページのリニューアルを検討、ホームページ上での公表に合わせて保護者への周知をしていきたい
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	0	毎年消防署にもご協力いただき、水害・地震・火災など様々なパターンで実施している	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	0	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	2	0		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	0		